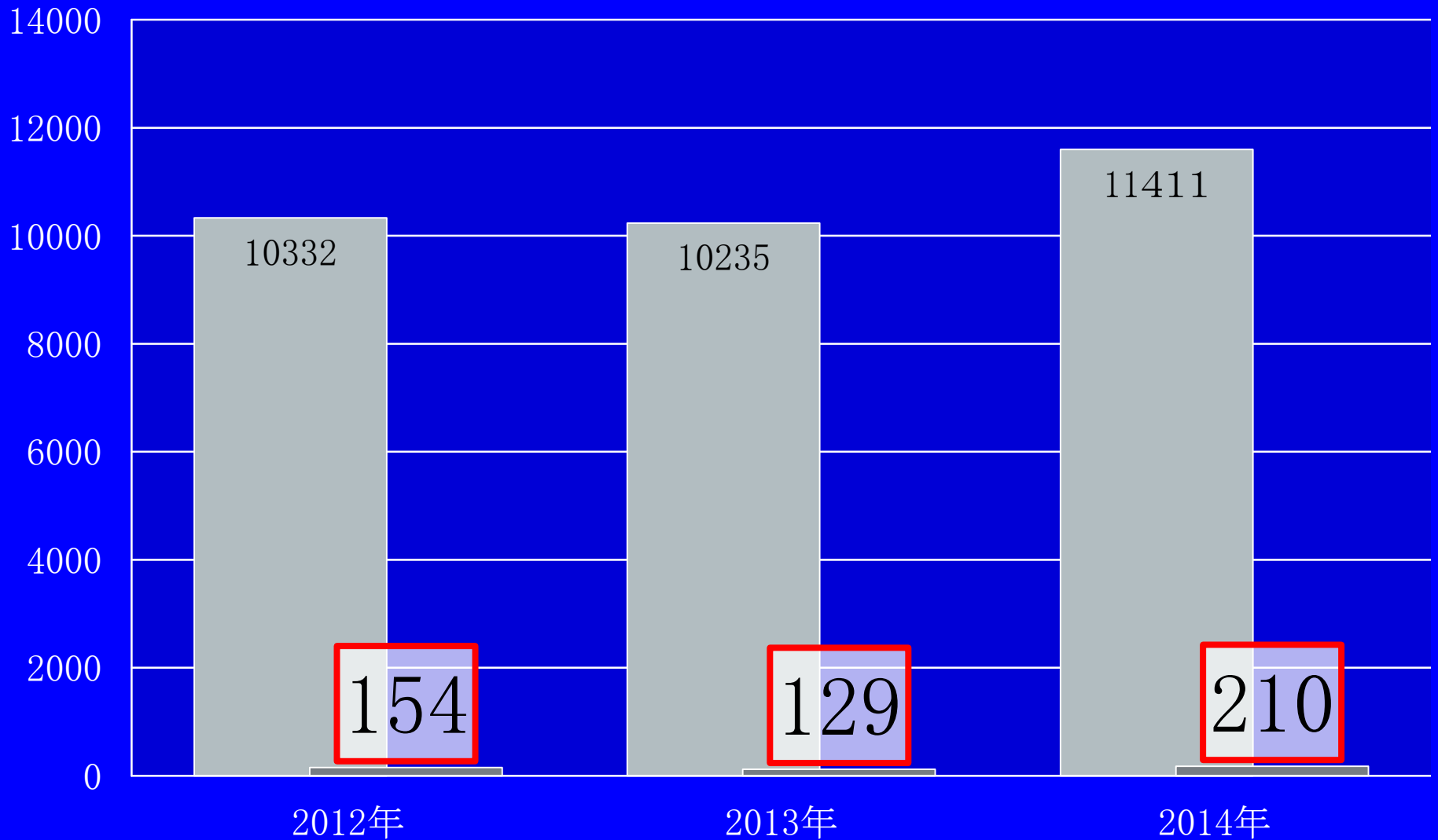


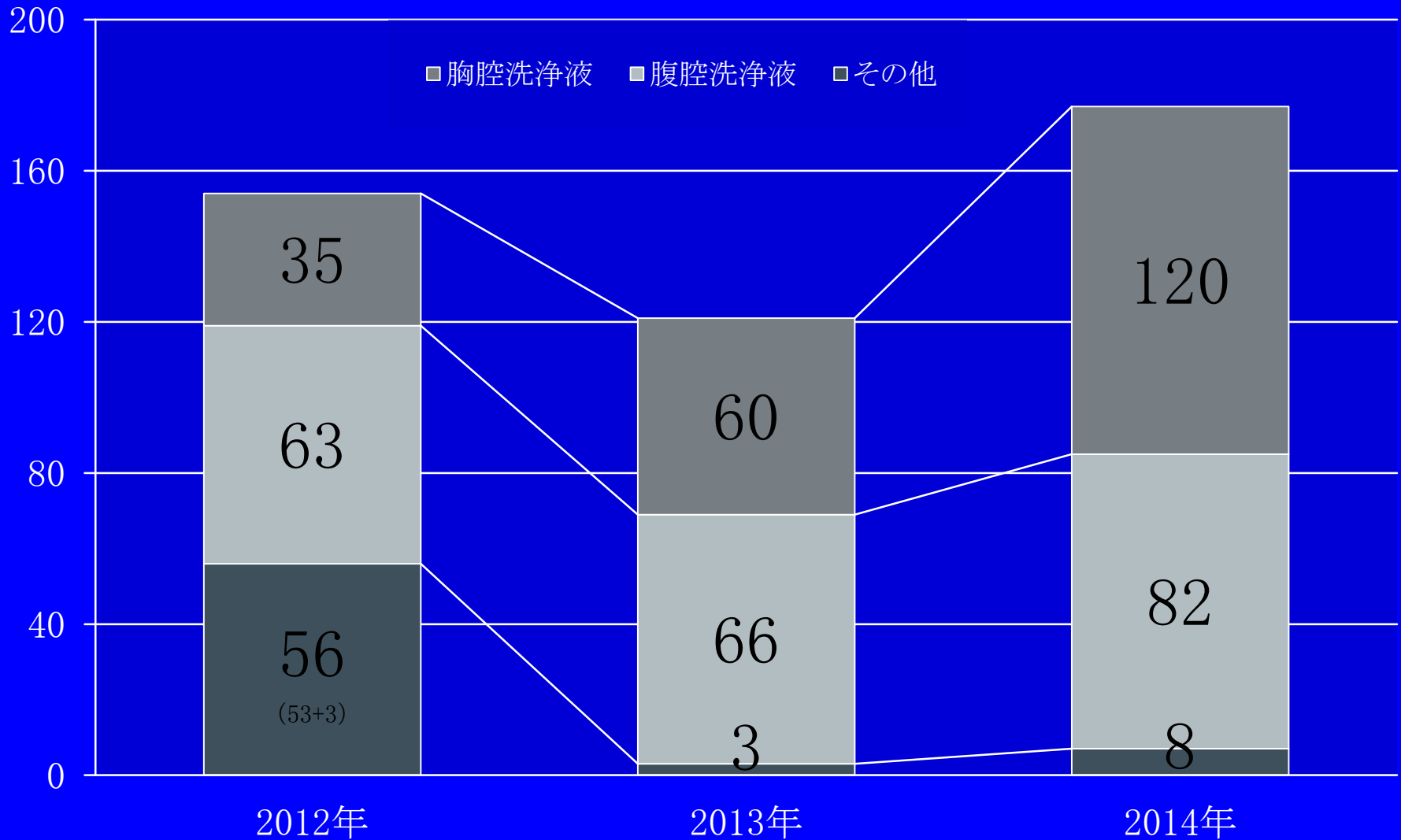
1) 当院の実施状況・総件数

2012年～2014年(1月～12月)



1) 当院の実施状況・術中迅速細胞

2012年～2014年(1月～12月)



細胞固定

正式法

遠心して沈渣を収集し、沈渣にサイトリッチを加え、よく攪拌して30分以上固定する。

迅速法

遠心して沈渣を収集し、沈渣にサイトリッチを加え、よく攪拌して直ちに前処理(遠心)を行う。



前処理(遠心)

正式法

1回目の遠心(600G, 10分間)

上清をデカントして捨てる。
沈渣に精製水を加えよく攪拌する。

2回目の遠心(600G, 5分間)

上清をデカントして捨てる。

迅速法

1回のみ遠心(600G, 5分間)

上清をデカントして捨てる。



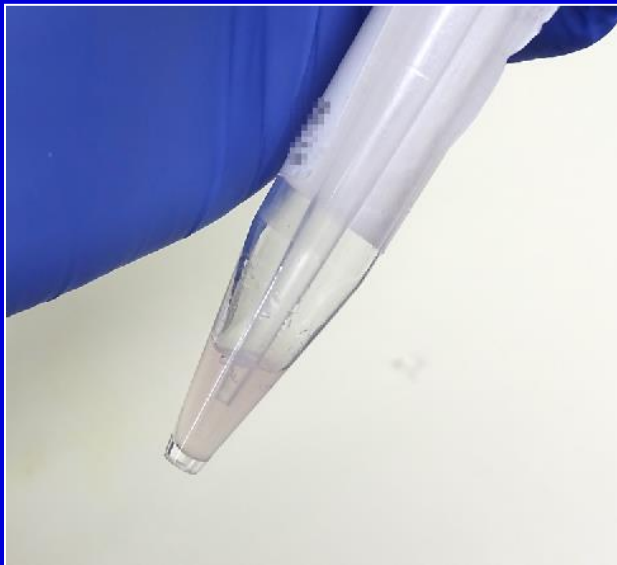
分注・塗抹

正式法

沈渣に精製水300 μ Lを加え、ミキサーでよく攪拌する。
ピペットで300 μ Lを採取し、セットしておいたセトリングチャンバー内へ分注し、**10分間静置**する。

迅速法

沈渣に精製水300 μ Lを加え、ミキサーでよく攪拌する。
ピペットで300 μ Lを採取し、セットしておいたセトリングチャンバー内へ分注し、**3分間静置**する。



染色系列:術中迅速細胞診染色

迅速Pap染色	
① 95%アルコール	(数秒)(固定)
② ヘマトキシリン	(1分)
③ 水洗	(数秒)
④ 1%塩酸70%アルコール	(2~3秒)
⑤ 水洗	(数秒)
⑥ 色だし	(60°Cのお湯で20~30秒)
⑦ 95%アルコール	(数秒・2槽)
⑧ OG-6	(1分)
⑨ 95%アルコール	(数秒・2槽)
⑩ EA-50	(1分)
⑪ 100%アルコール	(数秒・8槽)(脱水)
⑫ クリアプラス	(数秒・4槽)(透徹)
封入	

迅速Giemsa染色	
① May-Grunwald	(1分)
② 水洗	(30秒)
③ Giemsa	(5-10分)
④ 水洗	(30秒)
乾燥 ・ 封入	

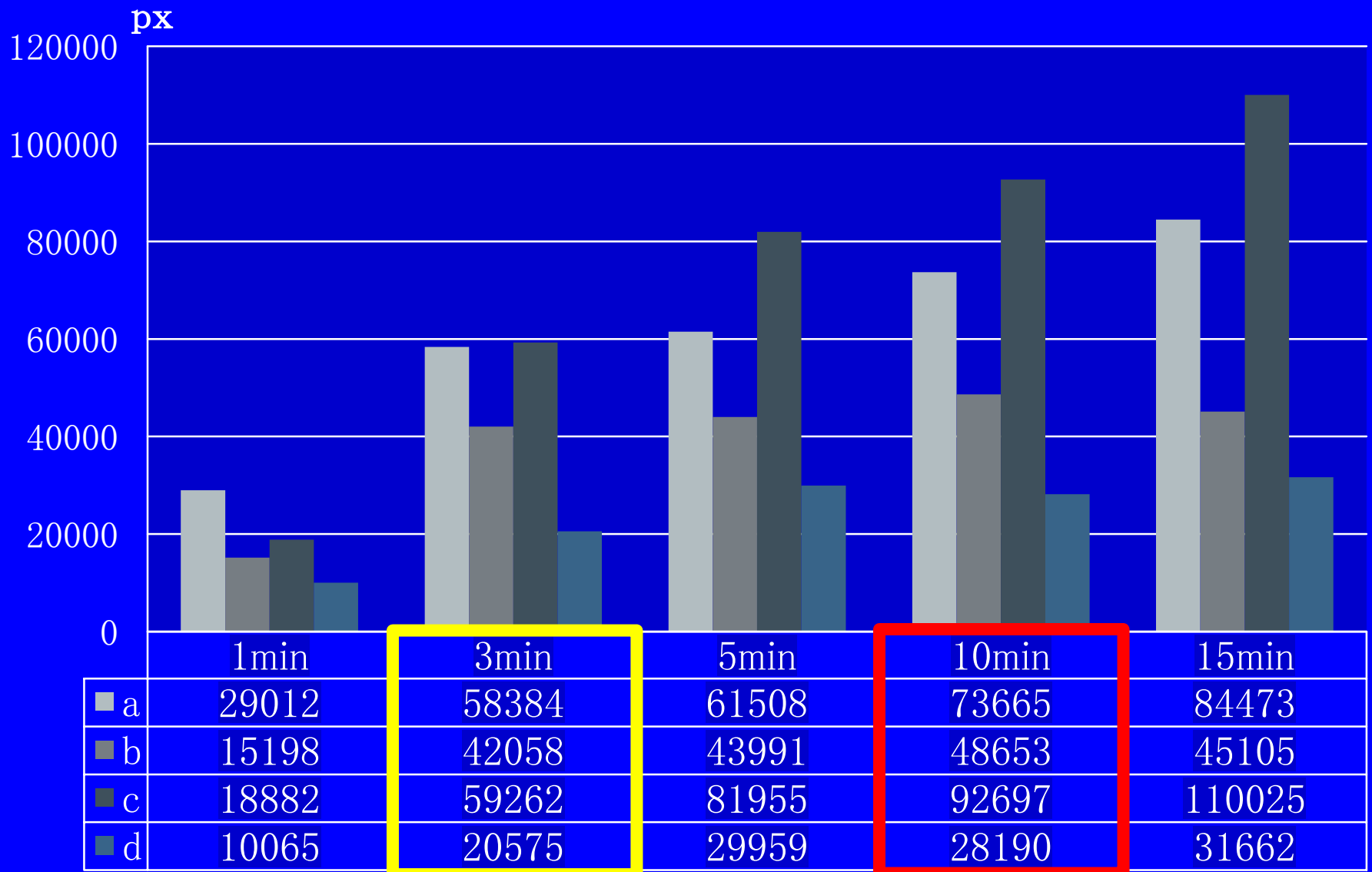
2) 技術検討

静置時間の違いによる細胞量の比較

	静置時間				
	1min	3min	5min	10min	15min
a					
b					
c					
d					

※Adobe Photoshopを使用し、ヒストグラムからピクセル数を調べた。

2) 技術検討



フリードマンの検定と多重比較

ノンパラメトリック検定

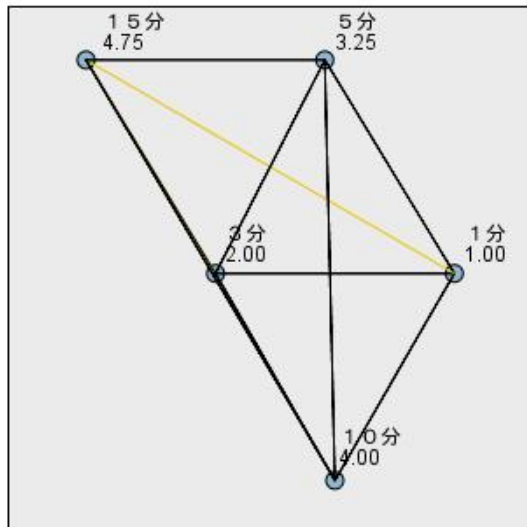
モデル・ビューアーからのテーブルは編集できません

仮説検定の要約

帰無仮説	検定	有意確率	決定
1 1分, 3分, 5分, 10分 and 15分の分布は同じです。	対応サンプルによる Friedman の順位付けによる変数の双方向分析	.006	帰無仮説を棄却します。

漸近的な有意確率が表示されます。有意水準は .05 です。

ペアごとの比較



各ノードにはサンプル平均ランクが表示されます。

サンプル1-サンプル2	検定統計	標準エラー	標準検定統計	有意確率	調整済み有意確率
1分-3分	-1.000	1.118	-.894	.371	1.000
1分-5分	-2.250	1.118	-2.012	.044	.442
1分-10分	-3.000	1.118	-2.683	.007	.073
1分-15分	-3.750	1.118	-3.354	.001	.008
3分-5分	-1.250	1.118	-1.118	.264	1.000
3分-10分	-2.000	1.118	-1.789	.074	.736
3分-15分	-2.750	1.118	-2.460	.014	.139
5分-10分	-.750	1.118	-.671	.502	1.000
5分-15分	-1.500	1.118	-1.342	.180	1.000
10分-15分	-.750	1.118	-.671	.502	1.000

各行は、サンプル1とサンプル2の分布が同じであるという帰無仮説を検定します。漸近的な有意確率(両側検定)が表示されます。有意水準は .05 です。

3) 症例

術中迅速細胞診の判定結果

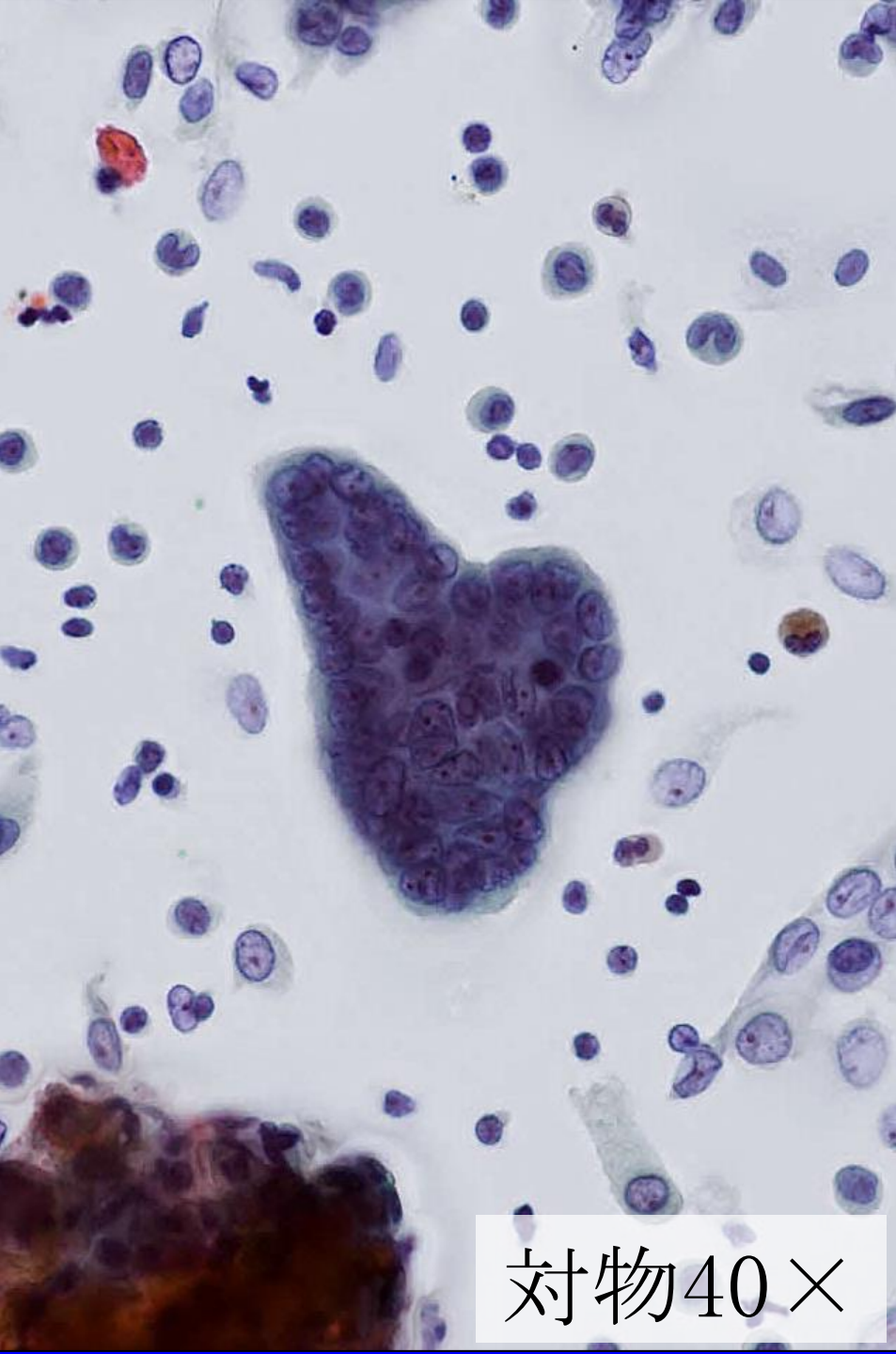
		迅速標本		
		(陰性)	(偽陽性) (鑑別困難)	(陽性)
永久標本	(陰性)	70	1	0
	(陽性)	1	5	5

<症例2>

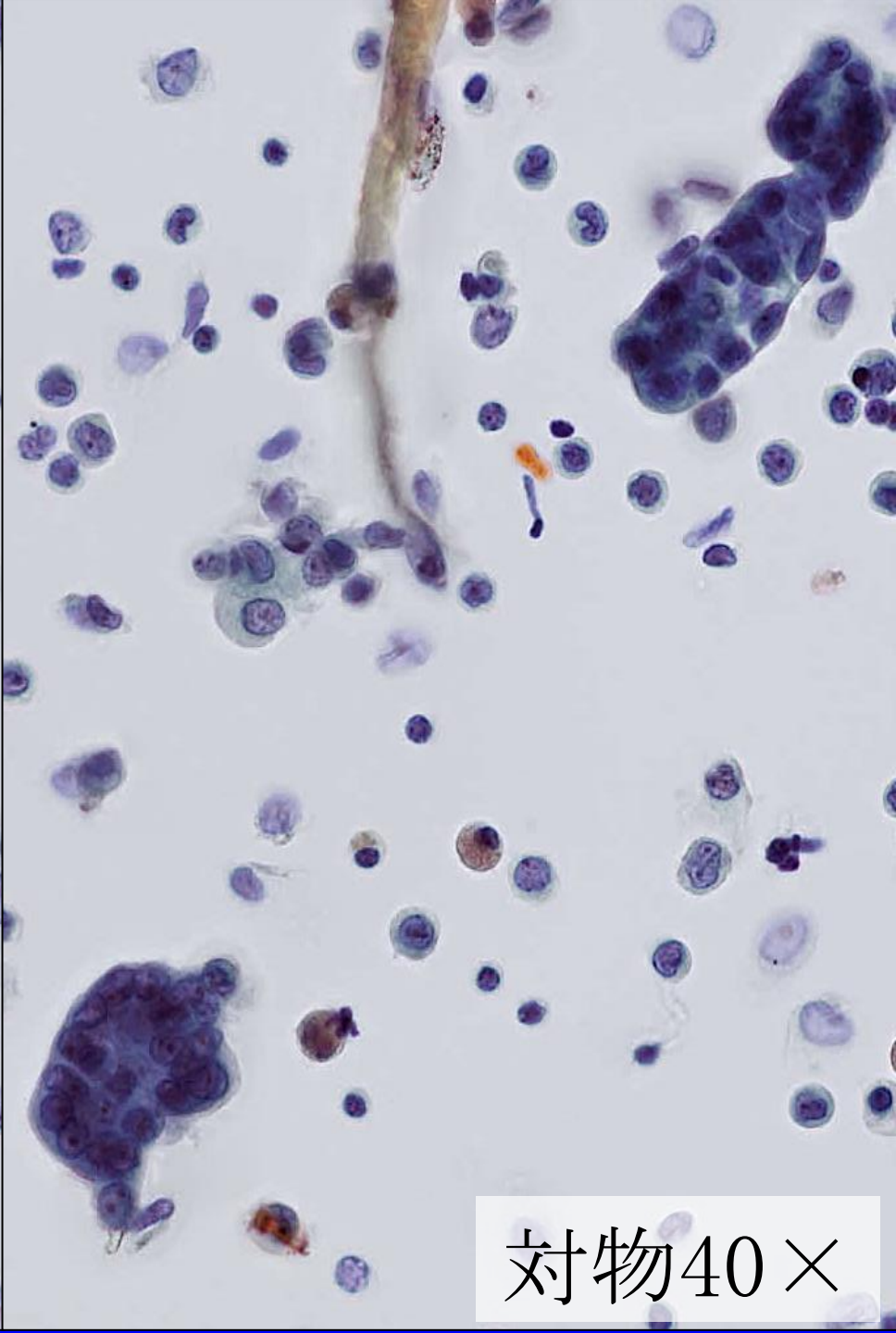
迅速標本
(偽陽性)



永久標本
(陰性)

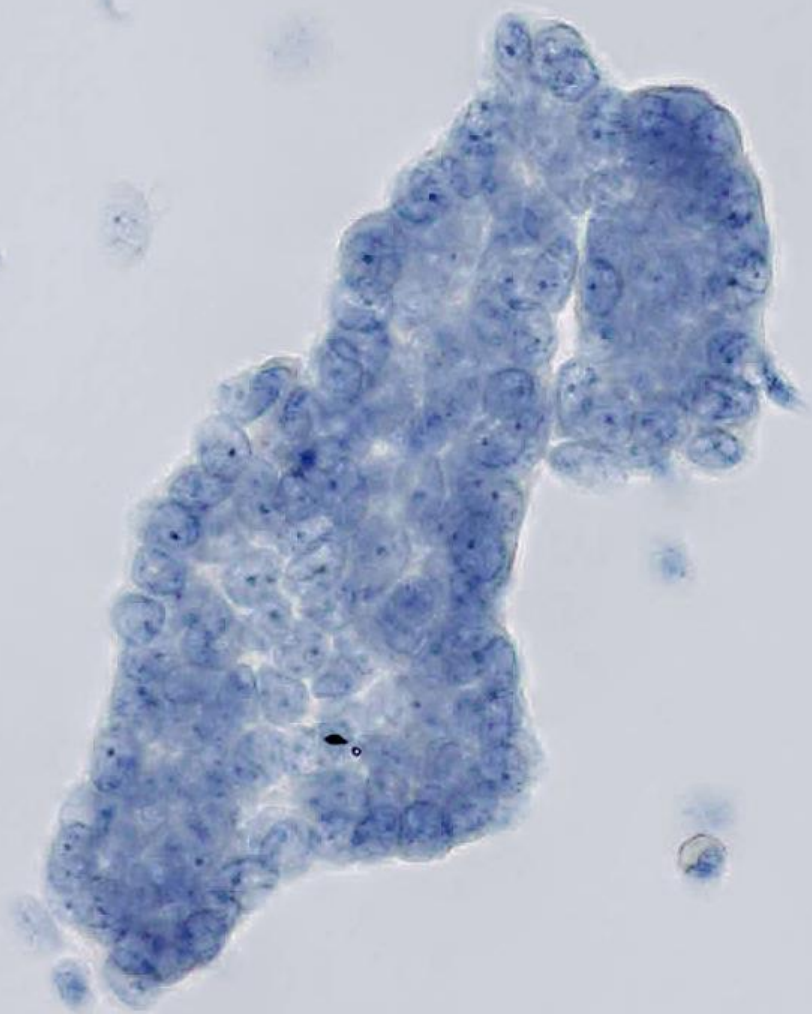


対物40×



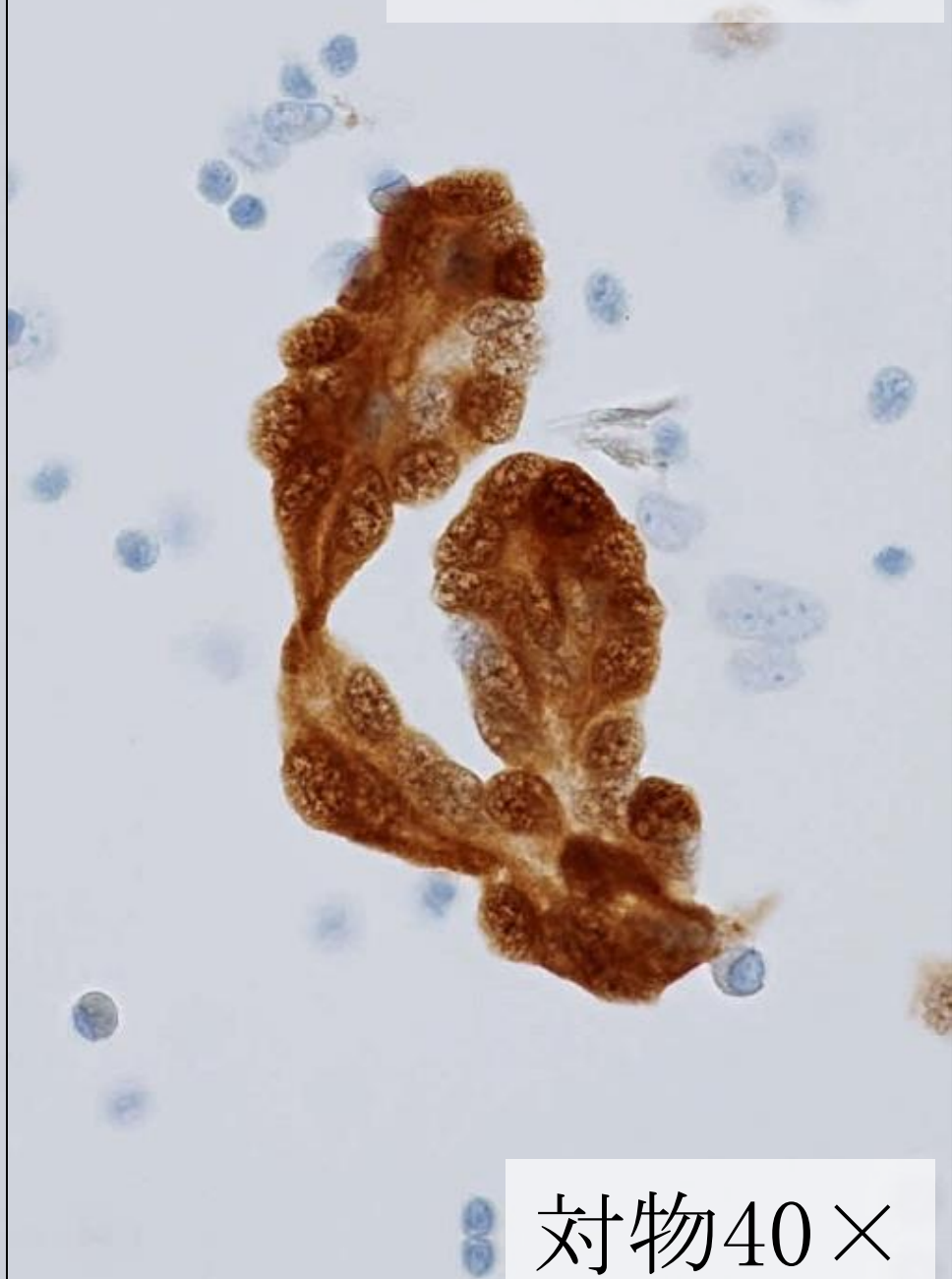
対物40×

CEA



対物40×

カルレチニン



対物40×

3) 症例

術中迅速細胞診の判定結果

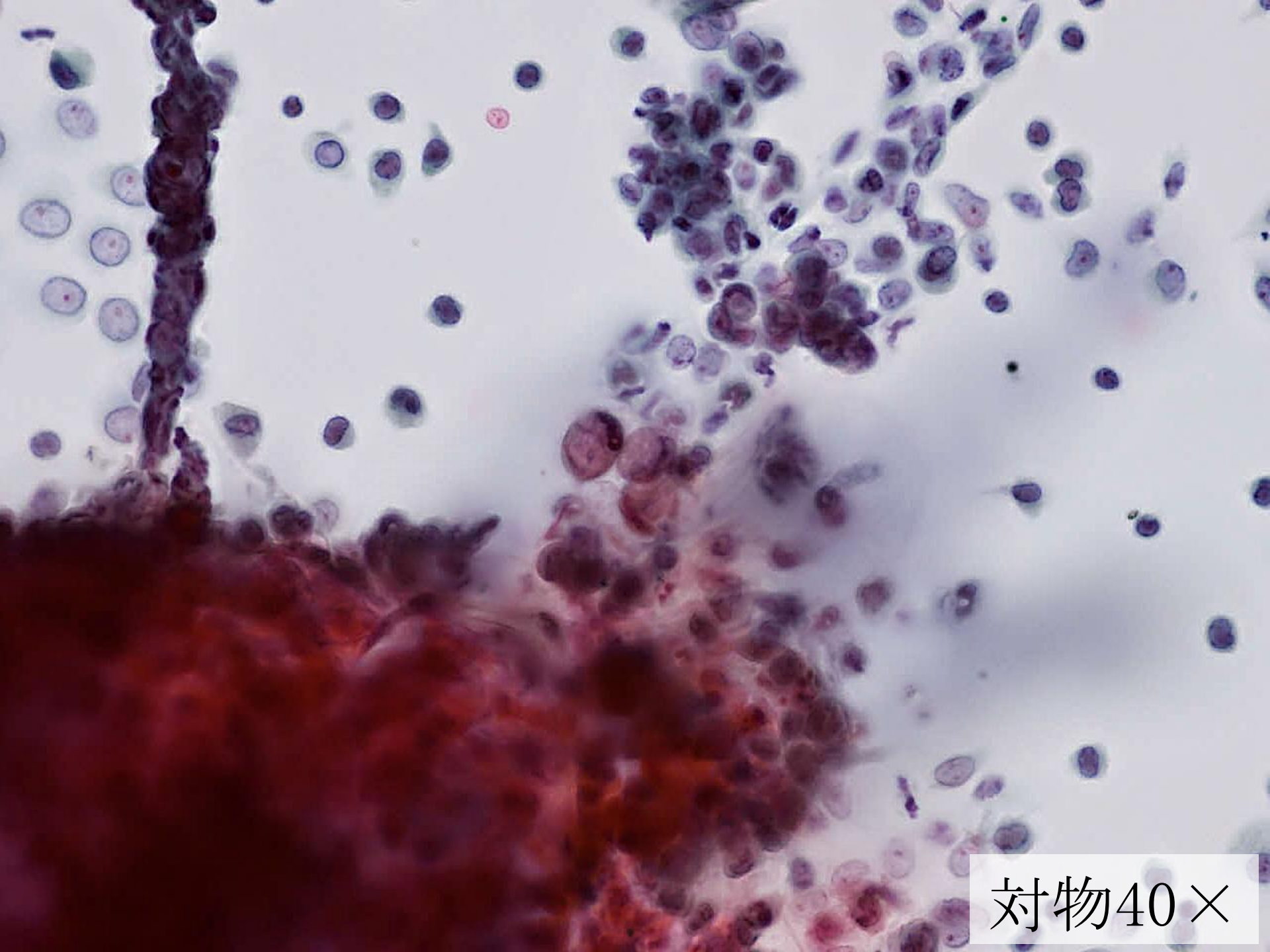
		迅速標本		
		(陰性)	(偽陽性) (鑑別困難)	(陽性)
永久標本	(陰性)	70	1	0
	(陽性)	1	5	5

<症例3>

迅速標本
(陰性)



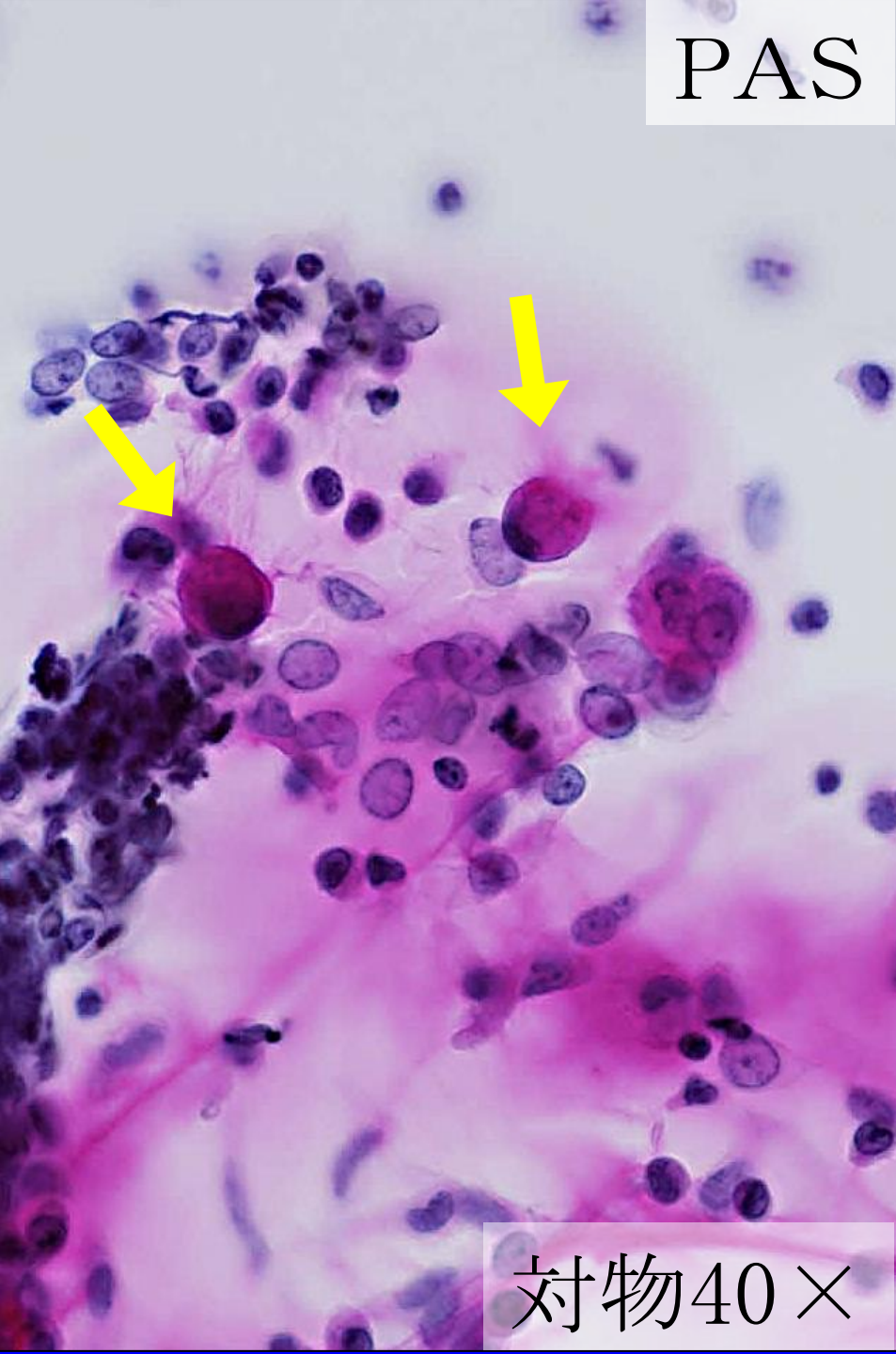
永久標本
(陽性)



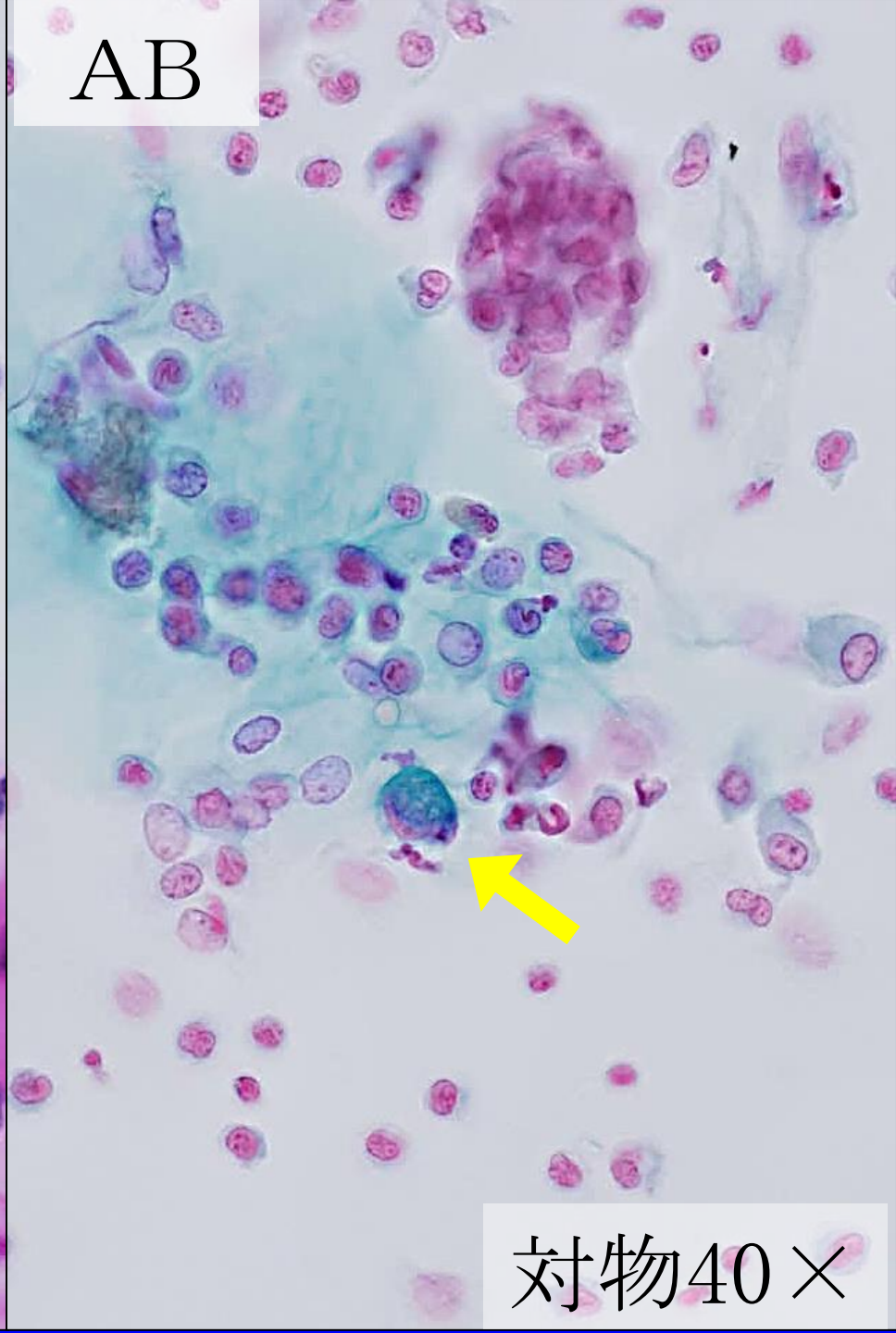
対物40×

PAS

AB



対物40×



対物40×

まとめ

- 当院の術中迅速細胞診件数は増加傾向にあり、業務の標準化・均てん化を図るために、迅速LBC標本を積極的に利用している。
- 迅速LBC標本の細胞塗抹時間3分静置と10分静置との間に、細胞量の有意差は認めなかった。
- 見落としや誤判定を防ぐために、染色性や集細胞技術の向上、迅速特殊染色や迅速免疫細胞化学の利用も今後検討する必要がある。